

絆をつなごう若い世代へ

山下 泰子

最近、二人のすばらしい若い女性に世界中の注目が集まっている。一人は、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイであり、もう一人は、国連ウィメン親善大使に任命されたエマ・ワトソンである。二人の国連演説は、世界を感動させた。

タリバンに至近距離から銃撃され、奇跡的に一命を取り留めたマララは、2013年7月12日、16歳の誕生日の国連本部でのスピーチを、「世界の無学、貧困、テロに立ち向かいましょう。本とペンを持って闘いましょう。それこそが、わたしたちのもっとも強力な武器なのです。ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えるのです。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を」と結んだ(マララ・ユスフザイ他『わたしはマララ』学研、2013年、424頁)。

ハリー・ポッター・シリーズのハーマイオニー・グレンジャー役で知られるエマは、2014年9月20日、国連本部で、国連の新しいプログラム「He For She」のスタートにあたり、「このスピーチをするにあたって感じてきた緊張と迷いの中で、ずっと自分自身に強く言い聞かせてきたことは、私でなければ一体誰が、そして今この時でなければ一体いつ声を上げるのか、ということです」と述べた(訳:「エマ・ワトソンが挑戦する“新しいフェミニズムの取り組み”」<http://yumatsumoto.tumblr.com/post/98217598964/emma-watson-speech-un-women-heforshe>)。

2014年秋、公益社団法人ガールスカウト日本連盟は、2020年へのビジョンを「すべての少女と若い女性が声をあげ、よりよい社会にするために行動を起こす」とし、「わたしが変わる。未来が変わる」をキャッチフレーズに決めた。

2015年は、世界中から55,000人が参加した北京世界女性会議から20年目にあたる。今年を「日本における『北京+20』年」として、さまざまな催しで盛り上げ、北京世代から若い世代へジェンダー平等を求める絆をつなぎたい。



PROFILE

やましたやすこ：法学博士。文京学院大学名誉教授。国連 NGO 国際女性の地位協会会長、認定 NPO 法人日本ネパール女性教育協会理事長、公益財団法人世界人権問題研究センター理事・嘱託研究員、公益社団法人ガールスカウト日本連盟監事、元ジェンダー法学会理事長。主著に『女性差別撤廃条約の研究』(尚学社、1996)、『女性差別撤廃条約の展開』(勁草書房、2006)『女性差別撤廃条約と日本』(尚学社、2010)、共編著に『ジェンダー六法』(信山社、2011)ほか。